山根一仁さん応援レポート
山田和樹
バーミンガム市交響楽団
山根一仁
2016年6月29日（水）
横浜みなとみらいホール大ホール

海外オーケストラとの初共演

英国・バーミンガム市交響楽団、1920年に創設され、世界的な名声を博しているオーケストラである。英国第二の都市であるバーミンガムのシンフォニー・ホールを本拠地とし、サー・サイモン・ラトルが18年に渡って指揮・音楽監督を行ったことで、さらに世界有数のオーケストラとなったと言われている。

会場は横浜みなとみらいホールの大ホール。みなとみらい21地区のクイーンズスクエア横浜内にある横浜初の本格的クラシックコンサートホールであり、1998年の開館以来、「海の見えるコンサートホール」として親しまれている。
大型のパイプオルガンを設置した大ホール（2,020席）は、アリーナ型の客席配置を取り入れており、音響的にも評価が高い。

本日の公演は、山田和樹氏の指揮、英国・バーミンガム市交響楽団の管弦楽。
山根さんは、ソリストとしてチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲（チャイコン）を演奏する。

山根さん初の海外オーケストラとの共演、雑誌等でも取り上げられるなど、話題の公演だ。会場には多くのお客様、山根さんの初共演を祝って、スタンド花もたくさん届いている。
指揮者の山田和樹氏とは、これまでにも数回共演している。2年前の日本フィルハーモニーとの演奏会でも、本日のチャイコフスキーを共演した。
「・・・僕の良いところをどんどん見つけてくれて、既存の音楽に合わせるのではなく、一緒に作っていく感じの方です」
「・・・僕の本番でしか生まれないアイデアに近づいてサポートしてくださいます・・・」と厚い信頼の「ヤマカズ」コンビでもある。

「ゾーンに入っている」かのような熱い演奏

始まりはウェーバーの歌劇「オベロン」序曲。
静かな音、力強い音、軽やかな音、迫力ある大きな音が心地よく響き渡る。

拍手に迎えられ、山根さん登場。
チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲が始まる。
チャイコンは名曲中の名曲。多くの演奏家に弾かれてきた曲だ。

「・・・楽譜と向き合い、自分の音楽性を表現したい。だから、演奏は毎回自然と変わってきているし、それが自分の音楽の面白みだと思います」とのコメントも届いている。山根さん自身、もう何度も弾いてきたというこの曲、今日は、どのように表現するのか楽しみだ。

オケが旋律を奏でたのち、山根さんのヴァイオリンが始まる。艶のある音色、余裕を感じさせるほどの堂々とした演奏が頼もしい。
「ゾーンに入っている」かのような、キレのある、熱のこもった演奏。山根さんらしさが滲み出る。マエストロとオーケストラとの一体感のもと、「今の自分が求めるチャイコン」を披露してくれた。

大ホールを埋める客席からの満場の拍手。

やまない拍手に応じたソリストアンコールは、バッハの無伴奏ヴァイオリン・ソナタBWV1003第Ⅲ楽章。

1本のヴァイオリンで、旋律と通奏低音の二声を弾くという、高度な技術が必要とされる曲を、ぐっとシックに聴かせてくれた。

会場には、3日前の群馬交響楽団の演奏会で共演した、指揮者・田中祐子氏、盟友・上野通明さん（44回生・チェロ）の姿も。

写真ご提供：横浜みなとみらいホール　©藤本文昭氏　当ページの写真全て

「今の自分が求める」チャイコンを

終演後、楽屋でマエストロと

３日前に共演した指揮者田中祐子氏と

終演後の山根さんに、話を聞いた；

ー　チャイコン、思いどおりに？；
「・・・チャイコンは親しまれた名曲ですが、皆が求めている演奏ではなく『自分の求める演奏』をしたつもりです」
「・・・リハーサルのときは、オケに引っ張られた感があって、それが自分でも嫌だったので、本番は『自分が巻き込もう』と。考え過ぎずに弾こうと思い直して、本番ではそれが実現できました」
「・・・とにかく楽しかったです。ヨーロッパのオケと演奏することができたというのは、自分にとっても大きなことです。オケの方々一人一人が本当に楽しんでくれているのが伝わってきました」
「もっともっと上手くなって、たくさんのオーケストラと共演したいなという思いが、さらに強くなりました」

ミュンヘン音楽大学に留学中の山根さん、留学して、音楽の捉え方が変わってきているそうだ。

楽屋で上野通明さんと

一方で、「・・・様々な経験を積むことにより、考え過ぎない強さ、知り過ぎていない強さを、少し失っていたかもしれない」とも。
「・・・このまま、自分の最高の音楽を目指しながら、ヨーロッパで活動できるような音楽家になりたい。自分の目指す本当にいいものだけを、追っていきたい」と、キリリとした表情で話してくれた。

山根さん、
素敵な演奏でした。
また聴かせてください！

≪演奏会概要≫

◆出演
山田和樹（指揮）
バーミンガム市交響楽団
山根一仁（ヴァイオリン）

◆プログラム
ウェーバー：歌劇「オベロン」序曲
チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
シベリウス：交響曲 第2番 ニ長調 作品43

◇ソリスト・アンコール
J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリンソナタ第2番イ短調BWV1003
第Ⅲ楽章Andante
◇アンコール
チャイコフスキー：歌劇「エフゲニー・オネーギン」よりポロネーズ

【コンサート・フライヤー(表）】

【コンサート・フライヤー(裏)】

ヨコハマが生んだ 2つのやわらかな感性 バーミンガム市響から 新たな美を紡ぎだす

横浜が生んだ若きマエストロ、山田和樹。2013年のスイス・ロマンド管に続き、2016年は、若き日のサイモン・ラトルが手塩にかけて育てたイギリスの名門、バーミンガム市響を率いて凱旋する。知的で、しなやかな感性に満ち、オーケストラのメンバーを魅了する音楽上の懐の深さも持ち合わせる山田は、バーミンガム市響との相性も抜群。今回も3つの作品から新たな美を紡ぎだすに違いない。

共演するソリストには、横浜出身、二十歳の山根一仁を抜擢した。OKしてくれたバーミンガム市響としても未知の若き才能との初共演。山根としては、初の海外主要オケとの共演となる。研ぎ澄まされた直観力を活かし作品の本質に鋭くメスを入れる山根は、協奏曲での手綱捌きも抜群のマエストロのもと、思う存分、そのセンスを開花させるに違いない。ヨコハマが生んだ2つの煌めく才能が、バーミンガムのオケをバックに対峙する。今後も幾度となく続く両者の共演の新たな一幕がいま開かれようとしている。

横浜みなとみらいホール　企画・運営アドバイザー　西巻正史

山田和樹 指揮　*YAMADA Kazuki, Conductor*

©Yoshinori Tsuru

神奈川県出身。東京藝術大学指揮科で小林研一郎・松尾葉子の両氏に師事。第51回ブザンソン国際指揮者コンクール(2009年)で優勝後、ただちにモントルー=ヴェヴェイ音楽祭にてBBC交響楽団を指揮してヨーロッパデビュー。同年、ミシェル・プラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮、すぐに再演が決定する。2010年には、小澤征爾氏の指名代役としてスイス国際音楽アカデミーで、2012年8月には、サイトウ・キネン・フェスティヴァル松本で指揮し、絶賛された。同8月にサントリー芸術財団サマーフェスティヴァルでクセナキス作曲「オレステイア三部作」も指揮。日本国内主要オーケストラに客演、ヨーロッパ各地の主要オーケストラにも破竹の勢いで次々とデビューを果たしている。

2010年、横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。2011年、出光音楽賞受賞。2012年、渡邊曉雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、文化庁芸術祭賞音楽部門新人賞受賞。

現在、スイス・ロマンド管首席客演指揮者、モンテカルロ・フィルハーモニー管首席客演指揮者、日本フィル正指揮者、横浜シンフォニエッタ音楽監督、仙台フィルミュージック・パートナー、オーケストラ・アンサンブル金沢ミュージック・パートナー。

2014年4月、東京混声合唱団音楽監督に就任。2016年9月よりモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督兼音楽監督に就任。

バーミンガム市交響楽団

City of Birmingham Symphony Orchestra

©Neil Pugh

1920年に創設されたバーミンガム市交響楽団(CBSO)は、世界的な名声を博している一方で、地元に深く根付いたオーケストラでもある。バーミンガム市のシンフォニー・ホールを本拠地とし、毎年130ほどのコンサートを、バーミンガム、イギリス全土、そして世界各地で行っている。サー・エドワード・エルガーが1920年11月に最初のコンサートを指揮した。エイドリアン・ボールト、アンジェイ・パヌフニク、ルイ・フレモーらの指揮・監督のもとでその評価を徐々に高め、サー・サイモン・ラトルの18年にわたる指導のもとで真に世界有数のオーケストラとなった。その後、サカリ・オラモ、08年9月からはカリスマ的な若いラトヴィア人指揮者、アンドリス・ネルソンスが音楽監督に就任した。

近年、CBSOはヨーロッパ有数の格式あるコンサートホールや音楽祭で数多く演奏を行っている。2012年にはパリのシャンゼリゼ劇場、ウィーンの楽友協会でも公演を行ったほか、ルツェルン音楽祭にレジデント・オーケストラとして参加した。CBSOはまた複数の主要なレーベルと契約してディスコグラフィを拡大し続けており、ラトル、オラモとの録音には多くの受賞作品が含まれている。2009年6月にはネルソンスとの最初のCDがドイツのレーベル、オルフェオからリリースされた。

山根一仁 ヴァイオリン　*YAMANE Kazuhito, Violin*

©Hiro Sato

1995年生まれ。2010年、中学校3年在学中に第79回日本音楽コンクール第1位、レウカディア賞、黒柳賞、鷲見賞、岩谷賞(聴衆賞)、並びに全部門を通して最も印象的な演奏・作品に贈られる樽沢賞も受賞。同コンクールで中学生の1位は26年ぶり。以後、桐朋女子高等学校音楽科(共学)に全額免除特待生として迎えられる他、福井県武生国際音楽祭、韓国グレートマウンテン国際音楽祭、フランスパブロ=カザルス音楽祭など国内外のマスタークラス、音楽祭にてソロおよび室内楽共に研鑽を積み音楽賞、優秀賞、ディプロマ等多数受賞。これまでに秋山和慶、井上道義、柳田敏明、大友直人、高関健、広上淳一、山田和樹等各氏とN響、新日本フィル、東響、日本フィル、東京フィル、アンサンブル金沢、都響、名古屋フィル、大阪フィル、札響、京響等と多数共演。またベルリン・フィル五重奏団、マキシム=ヴェンゲーロフ氏との共演、トッパンホール「エスポワールシリーズNo.11」に最年少で抜擢される等注目を集め、NHK-Eテレ『ららら♯クラシック』他、テレビ・ラジオへの出演も多数。2011年横浜市教育委員会文化芸術部門表彰。2012年第60回横浜文化賞文化芸術奨励賞を最年少受賞。2012年岩谷時子音楽財団第2回「Foundation for youth賞」受賞。2012、13年度ロームミュージックファンデーション奨学生。第43回江副記念財団奨学生。これまでに故宮岡真、水野佐知香両氏、桐朋学園大学ソリストディプロマコース(全額免除特待生)にて原田幸一郎氏に師事。現在ミュンヘン音楽・演劇大学にてクリストフ=ポッペン氏のもとさらに研鑽を積む。

ホール周辺案内・託児情報等

基本情報部分

- 就学前のお子様の同伴、入場はご遠慮ください。
- やむを得ぬ事情により出演者・曲目等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
- 場内に花束などのお持込みをご遠慮いただく場合がございます。

※チケットは如何なる場合(紛失・盗難・破損等)も再発行いたしません。
※お買い求めいただいたチケットは公演中止の場合を除き、変更払い戻しはいたしません。
※公演中止の場合に、旅費等の補償はできません。チケット券面額以外は一切ご返金できません。

Miraist Clubのご案内

Miraist Club(みらいすとクラブ)メンバーはホール主催公演などのチケットの割引、先行発売のサービスはもちろん、魅力的な特典を毎月お楽しみいただけます。ぜひ資料をご請求ください。
Miraist Club事務局
045-682-2025(10:00-18:00)

託児サービス

生後6ヶ月から学童までのお子様を、お預かりする託児サービスがございます。
予約制：先着10名様・お一人様2,100円(税別)、公演の3ヶ月前から5日前までの予約受付。
【お問合せ・ご予約】株式会社 明日香
☎045-316-5539
(月-金 9:00-17:00/土 9:00-12:00/日・祝 休)

みなとみらい駅(東急東横線直通みなとみらい線)下車、徒歩3分。

「クイーンズスクエア横浜連絡口」改札(地下3階)より左方向。クイーンズスクエア横浜内の吹き抜けエスカレーター(赤)を1階まで上がり左方向、クイーンモール左奥。

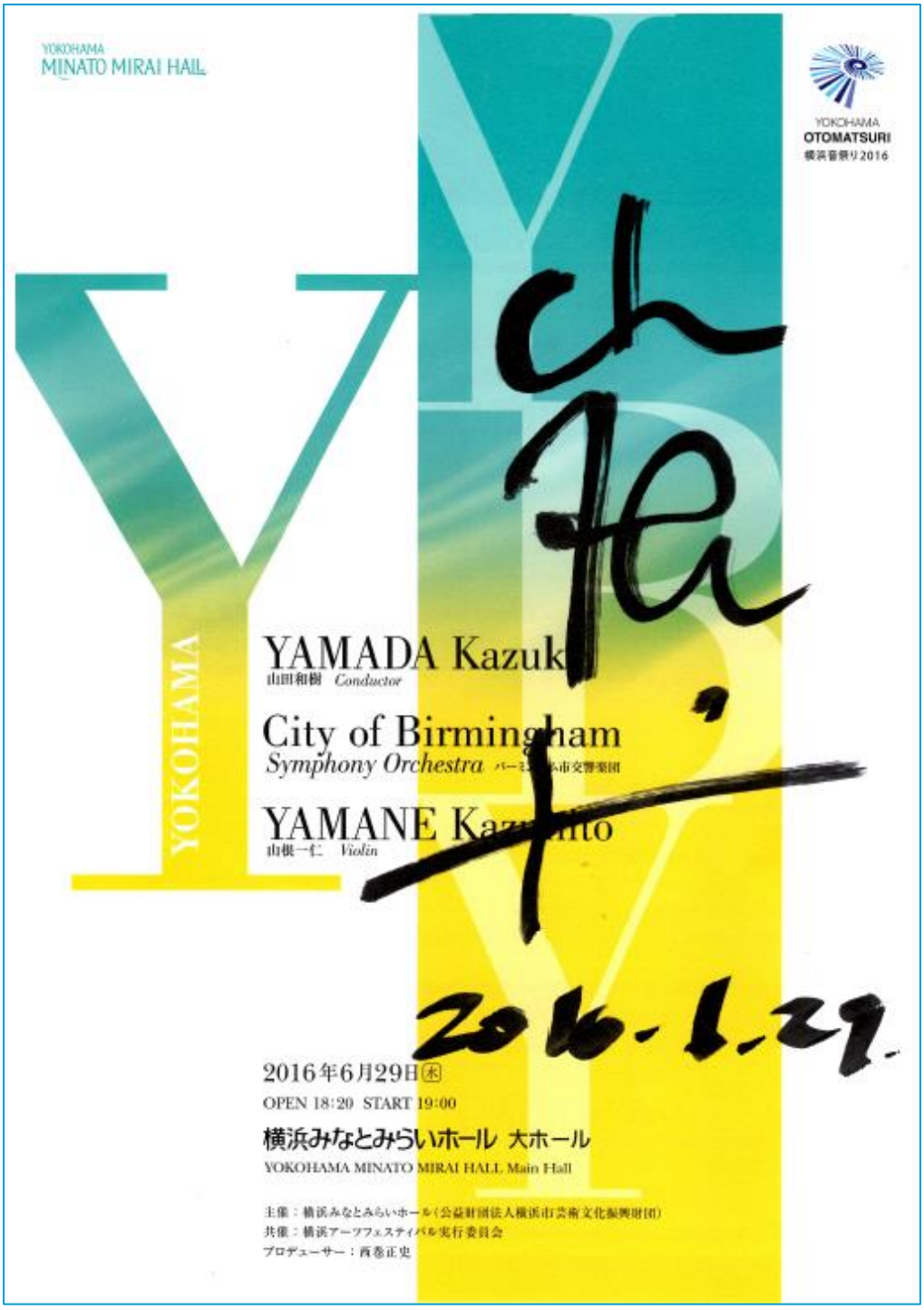
桜木町駅(JR京浜東北線・根岸線／横浜市営地下鉄)下車、徒歩12分。

みなとみらい方面の「動く歩道」から、ランドマークプラザ経由(3階から1階へ)でクイーンズスクエア横浜、クイーンモール左奥。

横浜みなとみらいホール

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-3-6
TEL.045-682-2020　FAX.045-682-2023
http://www.yafor.jp/mmh/index.php
@yokohamammh
【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】

【コンサート・プログラム（表紙）】



【コンサート・プログラム（裏表紙）】

山田和樹 指揮　*YAMADA Kazuki, Conductor*

©Marco Borggreve

神奈川県出身。東京藝術大学指揮科で小林研一郎・松尾葉子の両氏に師事。第51回ブザンソン国際指揮者コンクール（2009年）で優勝後、ただちにモントルー＝ヴェヴェイ音楽祭にてBBC交響楽団を指揮してヨーロッパデビュー。同年、ミシェル・プラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮、すぐに再演が決定する。2010年には、小澤征爾氏の指名代役としてスイス国際音楽アカデミーで、2012年8月には、サイトウ・キネン・フェスティヴァル松本で指揮し、絶賛された。同8月にサントリー芸術財団サマーフェスティヴァルでタセナキス作曲「オレステイア三部作」も指揮。日本国内主要オーケストラに客演、ヨーロッパ各地の主要オーケストラにも破竹の勢いで次々とデビューを果たしている。
2010年、横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。2011年、出光音楽賞受賞。2012年、渡邊曉雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、文化庁芸術祭賞音楽部門新人賞受賞。現在、スイス・ロマンド管首席客演指揮者、モンテカルロ・フィルハーモニー管首席客演指揮者、日本フィル正指揮者、横浜シンフォニエッタ音楽監督、仙台フィルミュージック・パートナー、オーケストラ・アンサンブル金沢ミュージック・パートナー。2014年4月、東京混声合唱団音楽監督に就任。2016年9月よりモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督兼音楽監督に就任。

バーミンガム市交響楽団　*City of Birmingham Symphony Orchestra*

©Neil Pugh

1920年に創設されたバーミンガム市交響楽団（CBSO）は、世界的な名声を博している一方で、地元に深く根付いたオーケストラでもある。バーミンガム市のシンフォニー・ホールを本拠地とし、毎年130ほどのコンサートを、バーミンガム、イギリス全土、そして世界各地で行っている。サー・エドワード・エルガーが1920年11月に最初のコンサートを指揮した。エイドリアン・ボールト、アンジェイ・パヌフニク、ルイ・フレモーらの指揮・監督のもとでその評価を徐々に高め、サー・サイモン・ラトルの18年にわたる指導のもとで真に世界有数のオーケストラとなった。その後、サカリ・オラモ、08年9月からはカリスマ的な若いラトヴィア人指揮者、アンドリス・ネルソンスが音楽監督に就任した。近年、CBSOはヨーロッパ有数の格式あるコンサートホールや音楽祭で数多く演奏を行っている。2012年にはパリのシャンゼリゼ劇場、ウィーンの楽友協会でも公演を行ったほか、ルツェルン音楽祭にレジデント・オーケストラとして参加した。CBSOはまた複数の主要なレーベルと契約してディスコグラフィを拡大し続けており、ラトル、オラモとの録音には多くの受賞作品が含まれている。2009年6月にはネルソンスとの最初のCDがドイツのレーベル、オルフェオからリリースされた。2016年2月4日、CBSOは2016年9月からの音楽監督にミルガ・グラジニーテ＝ティラを指名したことを発表した。バルト諸国の強力な合唱の伝統を背景に持ち（父親はリトアニアの合唱指揮者）、ザルツブルク州立劇場の音楽監督を務めた彼女は、バーミンガムではオペラのプロジェクトも率いることになっている。

The concert of the City of Birmingham Symphony Orchestra is a part of a Konzertdirektion Schmid Tour.

山根一仁 ヴァイオリン　*YAMANE Kazuhito, Violin*

©K.Miura

1995年生まれ。2010年、中学校3年在学中に第79回日本音楽コンクール第1位、レウカディア賞、黒柳賞、警見賞、岩谷賞（聴衆賞）並びに全部門を通し最も印象的な演奏・作品に贈られる堀沢賞も受賞。同コンクールで中学生の1位は26年ぶりの快挙。以後、桐朋女子高等学校音楽科（共学）に全額免除特待生として選ばれ2014年首席卒業。高校在学中より、秋山和慶、井上道義、梅田俊明、大友直人、川瀬賢太郎、高関健、広上淳一、山田和樹各氏等とN響、新日本フィル、都響、東響、東フィル、新日本フィル、日フィル、OEK、群響、京響、札響、名フィル等国内外のオーケストラと共演を重ねる他、16歳でベルリン・フィル五重奏団と共演した。また、トッパンホール『エスポワールシリーズ』には最年少で抜擢され注目を集め、同シリーズでは2014年Vol.1/無伴奏allein、2015年Vol.2/弦楽アンサンブル〈シュニトケ、ショスタコーヴィチ、ヴィヴァルディ〉のいずれも圧倒的な演奏で満場の喝采を浴びた。最終回Vol.3は2017年3月10日に開催が決定している。2015-16東急ジルベスターコンサート、NHK『ららら♪クラシック』、NHK-FM『名曲リサイタル』、テレビ朝日『題名のない音楽会』等、テレビ・ラジオの出演も多い。2010年度横浜市教育委員会表彰。2011年第60回横浜文化賞文化・芸術奨励賞最年少受賞。岩谷時子音楽財団『Foundation for Youth賞』受賞。第43回江副記念財団奨学生。2015年度青山音楽賞新人賞受賞。第60回出光音楽賞受賞。これまでに故宮岡萬、水野佐知香、原田幸一郎各氏に師事。現在ドイツ国立ミュンヘン音楽演劇大学に在籍、クリストフ・ポッペン氏のもと、さらに研鑽を積む。

【コンサート・プログラム　P.1】

Program
プログラム

ウェーバー：歌劇「オベロン」序曲
C.M.v.Weber : Overture to Oberon

チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
ヴァイオリン：山根一仁
P.I.Tchaikovsky: Violin Concerto in D major Op.35　Violin : YAMANE Kazuhito

第1楽章：アレグロ・モデラート ― モデラート・アッサイ
1st Mov.: Allegro moderato – Moderato assai

第2楽章：カンツォネッタ、アンダンテ
2nd Mov.: Canzonetta, Andante

第3楽章：フィナーレ、アレグロ・ヴィヴァチッシモ
3rd Mov.: Finale, Allegro vivacissimo

休憩 – Intermission -

シベリウス：交響曲 第2番 ニ長調 作品43
J.Sibelius: Symphony No.2 in D major Op.43

第1楽章：アレグレット
1st Mov.: Allegretto

第2楽章：テンポ・アンダンテ、マ・ルバート
2nd Mov.: Tempo andante, ma rubato

第3楽章：ヴィヴァチッシモ
3rd Mov.: Vivacissimo

第4楽章：アレグロ・モデラート
4th Mov.: Allegro moderato

【コンサート・プログラム　P.2】

オーケストラ、聴き手と創造の喜びを分かち合うヤマカズこと山田和樹が横浜のステージに帰ってくる。内外の檜舞台をひらりと行き来するようになった。チェコの名匠ビエロフラーヴェクが審査委員長を務めた第51回仏ブザンソン国際青年指揮者コンクール優勝から早7年。ここへきて、ジュネーヴを拠点とするスイス・ロマンド管弦楽団と、モナコのモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団が山田のかぐわしい音楽づくりに惚れ込んでいる。いっぽう、優れた若手指揮者を見出すことでは定評のある英バーミンガム市交響楽団とも好ましい関係を築く。

初めてのオーケストラに赴けば、終演後に「またご一緒しましょう」と声がかかる。この5月から6月にかけて、マエストロはジュネーヴでバレエ仕立ての「カルミナ・ブラーナ」に腕を揮い、伝統と格式を誇るドレスデン国立歌劇場管弦楽団と出逢った。さらに北欧ノルウェーはグリーグゆかりのベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団に足跡を印す。頼もしい。

魔法の角笛、妖精の調べが開演を彩る。劇中のアリアに基づく、アレグロ・コン・フオーコ（炎のごとく）の楽想に胸ときめく。ドイツ・ロマン派オペラの旗手ウェーバー（1786～1826）の、ちょっと懐かしい感もある「オベロン」序曲とは、ほほ緩むオープナーだ。

6年前の日本音楽コンクールから羽ばたき、ソロ、室内楽のフィールドで存在感を高めている山根一仁の出演に拍手を。コンチェルトはもちろん、近年トッパンホールのシリーズやニューイヤーで鮮烈な楽の音を披露。ミュンヘンでの新生活も始まった。山田和樹とも横浜みなとみらいホールとも、すでに深い絆で結ばれている。

哀愁が舞い、情熱もほとばしるチャイコフスキー（1840～1893）の協奏曲は中学2年の時から弾いている。1881年暮れに、かつてウィーンで学んだロシア人ヴァイオリニスト、アドルフ・ブロツキー（1851～1929）のソロ、ハンス・リヒター指揮ウィーン・フィル定期！で初演されたチャイコフスキーのコンチェルトに、野暮な解説は不要だろう。

メインには、フィンランドの孤高のシンフォニスト、ジャン・シベリウス（1865～1957）が紡いだ、気宇壮大な人気作が選ばれた。1902年3月に作曲者自身の指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー協会によって初演された交響曲第2番ニ長調。

清冽かつ味わい深い響きは申すに及ばず、管弦のうねりや奔流も客席の喜びとなる。交響詩的な趣きや古謡、讃美歌の旋律もホールを満たす。イタリア旅行の果実は、さて。楽想を特徴づけるリズミカルな動きは、フィンランド語独特の「はねる」音節に由来するか。繰り返し、積み重ねを極めたフィナーレの質感、高揚感は無類で、母国を想う音楽として聴かれたとしても、不思議はない。

山田和樹とバーミンガム市響の交歓に酔いしれたいものである。

奥田佳道
音楽評論家